

平成 28 年度事業報告書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん（若夏）

I 事業の成果・方針

1. 介護サービスの外部評価に関する事業

調査員 8 名で 23 件の認知症対応型共同生活介護事業所（以下グループホーム）で外部評価を実施した。新規委託は、1 件で初回の外部評価受審であった。22 件の外部評価結果をワムネットに掲載したが、1 件は 4 月中に掲載予定である。目標達成計画は 8 件が未提出でそのうちの 4 件は 3 月に外部評価が確定した事業所である。

同じ様式での評価であるため、前回と類似した自己評価結果が記載された項目も多いが、自治会加入や夏祭りの開催で地域交流を継続し、認知症カフェの開催で認知症やケアの周知に努めるなど、地域密着型サービスとして努力しているホームもある。職員の離職がどのホームでも大きな課題となり、職員の知識やスキルに応じた研修が実施できないのが現状であった。日々の言葉遣いに留意するように話し合いをしているホームが多く、心身の状況に応じたケアの実施はあるが、個別性や具体性に欠けた目標の設定や業務マニュアルのようなケア内容もあるなど、アセスメントやモニタリング不足の介護計画が多かった。

訪問調査では、このようなホームの現状を踏まえ、調査員の気付きや他のホームの工夫、地域の社会資源の活用等について話し合い、自己評価の補完に努めている。

また、今年度も電話にて、記載したアンケート内容がホームに漏れないかとの確認が 3 家族からあった。アンケート結果の取扱いに関する質問もあり、アンケート内容は外部評価の参考としていたり、評価確定後にホームに自由記載以外の集計表を送付し、自己評価表のアウトカム項目との比較をお願いしていることを伝えた。このような経緯を踏まえ、初回の外部評価受審事業所には契約時にアンケートの活用について、詳細に説明した。

<評価審査委員会>

平成 29 年 3 月に 4 ホームの訪問調査を実施したため、年度内に開催できず、平成 28 年度も昨年同様に、6 月頃に開催予定である。今年度も評価審査委員会の開催をお願いするようなグループホーム等からの意見はなかったが、認知症カフェや職員のスキルアップ、地域の社会資源の活用について、評価審査委員の方々にアドバイスをいただく予定である。

<調査員研修>

①当法人主催「生きていくこと～多様な介護サービスからの気付き～」平成 28 年 5 月 7 日 5 名参加会員の（有）コスモケア代表の坪根雅子さんに講師をお願いし、多様な介護サービス事業を展開される中での気付きをお話しいただき、今後どう生きるかを考える機会を設けた。最後まで家で暮らしたいとの癌末期の方の願いを叶える経緯や、その家族である認知症の方との関わりも講話された。又、福岡県介護支援専門員協会から派遣された熊本地震での被災者との関わりについて話された。

②福岡県介護支援専門員協会主催「認知症の生活を支えるケアプランの在り方」

平成 28 年 9 月 16 日 2 名参加

福岡県介護支援専門員川島豊輝氏が、日本の認知症施策やこれからの地域包括ケアの在り方について講話された。認知症ケアとは生活の継続性や自分らしさを支援することであり、ジレンマが生まれた時、チームが取るべき行動指針がケアプランだと話された。知識が実践と結びついているか、ケアの場面で不穏状態なのは、本人か職員かとの鋭い指摘もあった。

③のおがた認知症ケアシステム協議会・福岡県認知医療センター直方中村病院主催

平成 28 年 10 月 22 日直方市地域包括支援センター共催「事例検討会」3 名参加（理事 1 名を含む）
認知症初期集中支援チーム概要の説明後、地域包括支援センターからの事例を通じて、適切な支援に向けて認知症初期集中支援チームの訪問支援者として今後の関わりについて、グループワークをした。基本情報だけでなく、情報や社会資源についても活発な意見があった。

④公益社団法人福岡県介護福祉士会主催 「外部評価調査員スキルアップ研修」

平成 29 年 3 月 9 日 8 名参加

今回はおおいた観光特使、大分県人権問題講師団講師で佐伯市宇目にある神宮の宮司である矢野大和氏の講話であった。相手から話を上手に聞き出す方法や身近な人権について話された。人間関係は笑顔で相手に合わせる事と切り出され、機知に富んだ話しぶりに参加者一同大爆笑する等、平易な言葉での講話であった。

⑤当法人主催「地域包括ケアを考える～訪問看護、熊本地震を通じて～」平成 29 年 3 月 28 日

平成 28 年 5 月の研修会の第 2 回目として、会員の（有）コスモケア代表の坪根雅子さんに講師をお願いした。今回は会員のみならず、地域密着型事業所などに案内をした。会員 7 名（調査員 3 名含む）、民生委員 1 名、小規模多機能事業所職員 1 名、グループホーム職員 5 名、訪問介護サービス提供責任者 1 名の参加があった。訪問看護で関わった 2 つの事例や再度訪問された熊本地震の被災地の報告を通じて、地域包括ケアでは視点を変えた関わりや近隣と普段から関わりが重要と話された。

2. 介護保険オンブズパーソン事業は今年度の実施はない。

3. 介護サービスに関する相談・研修会開催事業は今年度の実施はない。

4. 介護サービスに関する調査研究事業は今年度の実施はない。

5. 介護予防に関する講習事業は今年度の実施はない。

6. 介護予防に関する調査研究事業は今年度の実施はない。

7. 保健や福祉及び介護情報や知識に関する出版物の発行事業

今年度は、うりずん通信は発行していない。ホームページには、平成 27 年度事業報告や活動計算書、外部評価事業の実績や収支決算書、貸借対照表を掲載した。

8. 男女共同参画社会促進に関する相談・講習事業

直方市男女共同参画夢ネットに団体会員として加入し、直方市男女共同参画夢ネットが直方市から受託した第 20 回のおがた男女共同参画フェスタに、救護班として 1 名の会員が参加した。

9. 子どもの健全育成に関する相談・支援事業は、本年度の実施はない。

10. 介護保険法に基づく指定市町村事務受託法人事業

平成 28 年度、直方市や飯塚市と要介護認定調査の契約書を取り交わした。調査員 4 名で、直方市 362 件、飯塚市 14 件、北九州市 35 件、その他（下関市、白河市、八代市、対馬市、佐賀広域連合、中津市其々 1 件）6 件で 417 件を調査した。

福岡県主催の平成 28 年度認定調査員研修（基本編：平成 28 年 11 月 25 日 1 名、応用編：11 月 24 日 2 名）に参加した。

各保険者の担当者から、調査内容について随時受けたヒアリング内容を調査員間で共有し、研修等で今後も調査のスキルアップに努める予定である。

II 事業実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額千円
1. 介護サービス外部評価に関する事業	地域密着型サービス外部評価事業	平成28年4月～平成29年3月	福岡県	8人	地域密着型サービス事業所23ヶ所	2,271
2. 介護保険オンブズパーソン事業		実施なし				
3. 介護サービスに関する相談・研修会開催事業		実施なし				
4. 介護サービスに関する調査研究事業		実施なし				
5. 介護予防に関する講習事業	認知症予防・介護予防講座	実施なし				
6. 介護予防に関する調査研究事業	介護予防事業の推進に関する調査研究事業	実施なし				
7. 保健や福祉及び介護情報や知識に関する出版物の発行事業	「うりずん通信」の発行 ホームページの更新	実施なし 随時（外部評価事業経費に計上）		1人		5
8. 男女共同参画社会促進に関する相談・講習事業	直方市男女共同参画「夢ネット」団体加入		直方市	1人		3
9. 子どもの健全育成に関する相談・支援	子育て支援に関する講座	実施なし				
10. 指定市町村事務受託法人事業	介護保険要介護認定調査	平成28年4月～平成29年3月	直方市及び飯塚市等	5人	介護給付新規及び更新申請者417名	2,343